

## 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	こどもの居場所づくり食育事業
事業主体 (連絡先)	佐久子育てわくわく団 (佐久市中込 1854-2 電話 080-6603-9094 代表 土屋一彦)
事業区分	(4) 安心・安全な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	555,613 円 (うち支援金: 403,000 円)

### 事業内容

一場所多機能(学習支援・食事支援・相談支援)のこどもの居場所づくりと食育事業として「さくこども食堂」と「さく親子カフェ」を開催した。学習支援では、地域のボランティアや大学生が宿題を見たり、異年齢で群れて遊び、こどもから大人までが集い交流した。食事支援では、シニア世代の地域ボランティアとこども(親子)と一緒に調理し、佐久地域の特産品や伝統食を作った。相談支援では、こどもの心に親身に寄り添い話を聞いたり、保育士や助産師など子育ての専門家が直接相談に乗り、予防策や解決策をアドバイスした。行政や専門機関に相談した方が良い内容については、佐久地域こども応援プラットフォームを通し、対応できる機関へ繋いだ。



【さくこども食堂の様子】

### 【目標・ねらい】

- ① 孤立・孤食の予防多世代交流(異年齢交流)
- ② 虐待の予防(相談機能の充実)
- ③ 食育
- ④ 学習(集団あそびの充実)

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

多世代で交流することにより、こども自身の自己肯定感や自尊心が育まれた。大学生とこどもとの関わり合いの中から、年齢の近いお兄さん(お姉さん)への憧れを抱き、将来へ希望を持ち、社会性や協調性を養った。普段こどもとの触れ合いの少ないシニア世代は、こどもとの交流を通し、生きる力をもらい、地域のみんなでこどもを守り育てる気持ちが育まれた。

子育て世代の保護者は、専門家へ相談したり、同じ悩みや不安を持つ保護者同士で交流することで、日頃募らせている悩みを解決したり、子育てのヒントを得られ、虐待や孤立防止へとつながった。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

こどもの食堂に参加する小学生や幼児は、自然体験やあそびの引き出しの少なさを痛感したことから、学習支援(宿題をやる(見守る))だけでなく、異年齢で群れてあそぶ、道具を使わないであそぶ遊びを創出できるようなフォローを考えていきたい。そして、継続した相談支援を実施する。親子カフェでは、室内だけに限らず、屋外でも体を使ったプログラムを実施し、運動の発達も視野にいれた内容を行っていく。また、相談支援も継続して実施し、虐待や孤立防止へとつながっていく。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### ※自己評価【B】

#### 【理由】

こども食堂は、中止に伴い参加人数が大幅に減少したが、親子カフェは毎回キャンセル待ちがでるほどニーズが高かった。